

「平成27年度 地域活性化に向けた協働取組の
加速化事業」
中期計画シート(詳細版)

錦江湾奥湿地ネットワーク
活性化事業

平成28年3月11日

請負契約の受託 団体の法人名	特定非営利活動法人 くすの木自然館
受託団体の代 表者氏名	浜本 奈鼓

目 次

- 1 組織概要
- 2 地域の課題
- 3 協働取組の概要
- 4 3年後のゴールイメージ
- 5 理想とする協働主体の関係図
- 6 2018年度の目標・事業内容・スケジュール
- 7 2017年度の目標・事業内容・スケジュール
- 8 2016年度の目標・事業内容・スケジュール
- 9 事業実施における課題・リスクと対策

1 組織概要

法人名	特定非営利活動法人 くすの木自然館		代表者名	浜本 奈鼓	
所在地	〒899-5652 鹿児島県始良市平松7703		電話	0995(67)6042	
			FAX	0995(57)7337	
ホームページ	http://www.kusunokishizenkan.com		e-mail	office@kusunokishizenkan.com	
組織体制	役員	8 名	会員	25 名	
	専従者	5 名	ボランティア	50 名	
	パートタイム	名	その他()	名	
	創立年	1995 年	法人設立年	2000 年	
これまでの活動実績	平成12年 特定非営利活動法人として認証 平成18年 「重富干潟小さな博物館」開設 鹿児島県民表彰「くらし・環境部門(団体)」 平成21年 鹿児島県景観賞 受賞 平成24年 環境省「環境省水・土壌環境局長賞」受賞 国交省「手作り郷土賞」認定 平成25年 環境省「みどりの日 自然環境功労者 環境大臣表彰」受賞				
過去5年間に受けた補助金や助成金等の名称及び金額	平成26年度 鹿児島県 NPO共生・協働かごしま推進事業 「鹿児島湾奥における生態系ネットワーク形成事業」 250万円 平成26年度 始良市「錦江湾始良インタープリター育成事業」 5,559,192円 平成25年度 始良市「錦江湾インフォメーション拠点整備事業」6,205,000円 始良市「希少生物の保護と良好な自然環境保全拠点整備事業」6,204,681円 平成25年度26年度 セブン・イレブン記念財団 「環境市民活動支援のための基本協定書」 2,400,000円 平成24年度 鹿児島県「希少野生動植物保護対策事業」1,976,830円 平成24年度 伊佐市「校区コミュニティ協議会振興計画策定事業」2,300,000円 平成23年度 始良市「錦江湾国立公園エコツーリズム拠点整備事業」7,819,350円				
事業地域	事業名	錦江湾奥湿地ネットワーク活性化事業			
	該当地域	☐ 全国		☒ 地方	
	事業実施地域	鹿児島県始良市松原地域から霧島市国分広瀬地域にかけて、鹿児島湾沿岸に広がる湿地帯およびその周辺地域			
事業分野	☐ 低炭素社会	☐ 循環型社会	☐ 自然共生社会	☐ その他 ()	

地域の課題

現在表面化している問題

- ・当該地域はクロツラヘラサギをはじめとする絶滅危惧種の越冬場所となっているが、人の暮らしとの距離が近く、早急な保全対策が必要である。
- ・釣りやレジャーなどを目的とした来訪者のゴミの放置、時には粗大ごみの廃棄場所となっている。
- ・湿地帯を利用する希少な野生動物の、住民レベルへの啓発が不足している。そもそも継続した調査が行われていない。
- ・沿岸地域の保全をするためには、湾奥の自治体や自治会・国や県・専門家の交流が不可欠であるが、現在は繋がりが希薄である。

問題を放置した場合に想定される状況

- ・地域住民の環境保全意識の低下。
- ・環境悪化による既存希少種の個体数減少および生息域の縮小。
- ・課題解決に向けたネットワークの希薄による、地域一体となった保全の取組不履行。

該当地域の社会的・地域的背景

- ・当該地域はクロツラヘラサギをはじめとする絶滅危惧種の越冬場所となっているが、人の暮らしとの距離が近く、早急な保全対策が必要である。
- ・釣りやレジャーなどを目的とした来訪者のゴミの放置、時には粗大ごみの廃棄場所となっている。
- ・湿地帯を利用する希少な野生動物の、住民レベルへの啓発が不足している。そもそも継続した調査が行われていない。
- ・沿岸地域の保全をするためには、湾奥の自治体や自治会・国や県・専門家の交流が不可欠であるが、現在は繋がりが希薄である

地方公共団体の政策課題等との関係性

鹿児島県は、今般「生物多様性鹿児島県戦略」を策定し、生物多様性保全上重要な地域を保全し自然のつながりを取り戻すための戦略的な取組として、生態系ネットワークの形成を位置づけている。また、10年後の鹿児島の姿として、「自然海岸、干潟等自然の水辺等を増やすための自然再生の取組が住民の参加により始められている。」としている。

協働取組の概要

協働取組の目的とテーマ

当法人では平成26年度、NPO共生・協働かごしま推進事業として「鹿児島湾奥湿地における生態系ネットワーク形成事業」を実施した。
湾奥沿岸に広がる湿地帯で越冬するクロツラヘラサギ(絶滅危惧種)をはじめとした、希少な渡り鳥たちの生息環境の保全および有効な利用を目指したものであった。
その中で、行政と地域自治会、専門家、そして当法人とで「保全利用に関する懇話会」を計四回開催し、当該地域の適切な保全利用を図るための提言をまとめた。
今回の事業では、そのネットワークの継続と、今後の協働での取組をより具体的に進めるために地域自治会との連携強化を図っていくものとする。
具体的には地域住民から、周辺環境の利用者のマナー(ゴミの放置等)向上の施策を求める声が多く、マナー啓発と同時に地元の豊かな自然環境の普及啓発へと繋げていく。

課題解決に向けたアイデアと協働プロセス

地域自治会の抱える問題点は、実は自治会ごとに異なっている。
始良市と霧島市、行政区を越えた地域住民・自治会のネットワークであるため、お互いの情報交換が重要となってくる。
そのための懇話会を、当法人が事務局を担い、行政、専門家を交えて定期的で開催しながら、実施していく。
湾奥一斉クリーンアップの提案や、当法人による地域住民への啓発のための野鳥(自然)観察会等の実施、自治会のみならず地元小学校や老人福祉施設などへの出前講座の実施などを実施していく。

地域・協力者の期待・ニーズとの整合性

地域住民が抱えるゴミの問題や教育不足といった共通の課題を解決することができる。
ひとつの自治会だけでは出来なかったこと、行政だけでは限界のあったこと、それらがネットワークという協働で繋がることにより、地域資源の保全と地域の活性化に大きく寄与する事例が期待される。

3年後のゴールイメージ

2018年度末のゴールはどこか(最高の状態)

錦江湾奥の環境保全について、ステークホルダーの利益を損ねない、法的拘束力のある施策が講じられ、地域住民を含めた市民主導で保全利用・保護活動が進められ、生息域の保護・希少種の個体数維持が促進されている

2018年度末のゴールはどこか(望ましい状態)

行政・自治会内外の管轄をまたいだ協力体制の下で、清掃活動・公民館講座といった協働取組が充実化し、ネットワーク参加の各自治会で年2回以上の取組が恒例化し、保全の意識が高められている

2018年度末のゴールはどこか(確実に達成する状態)

湾奥湿地ネットワークが継続し、情報共有がされて、保全が促進されている

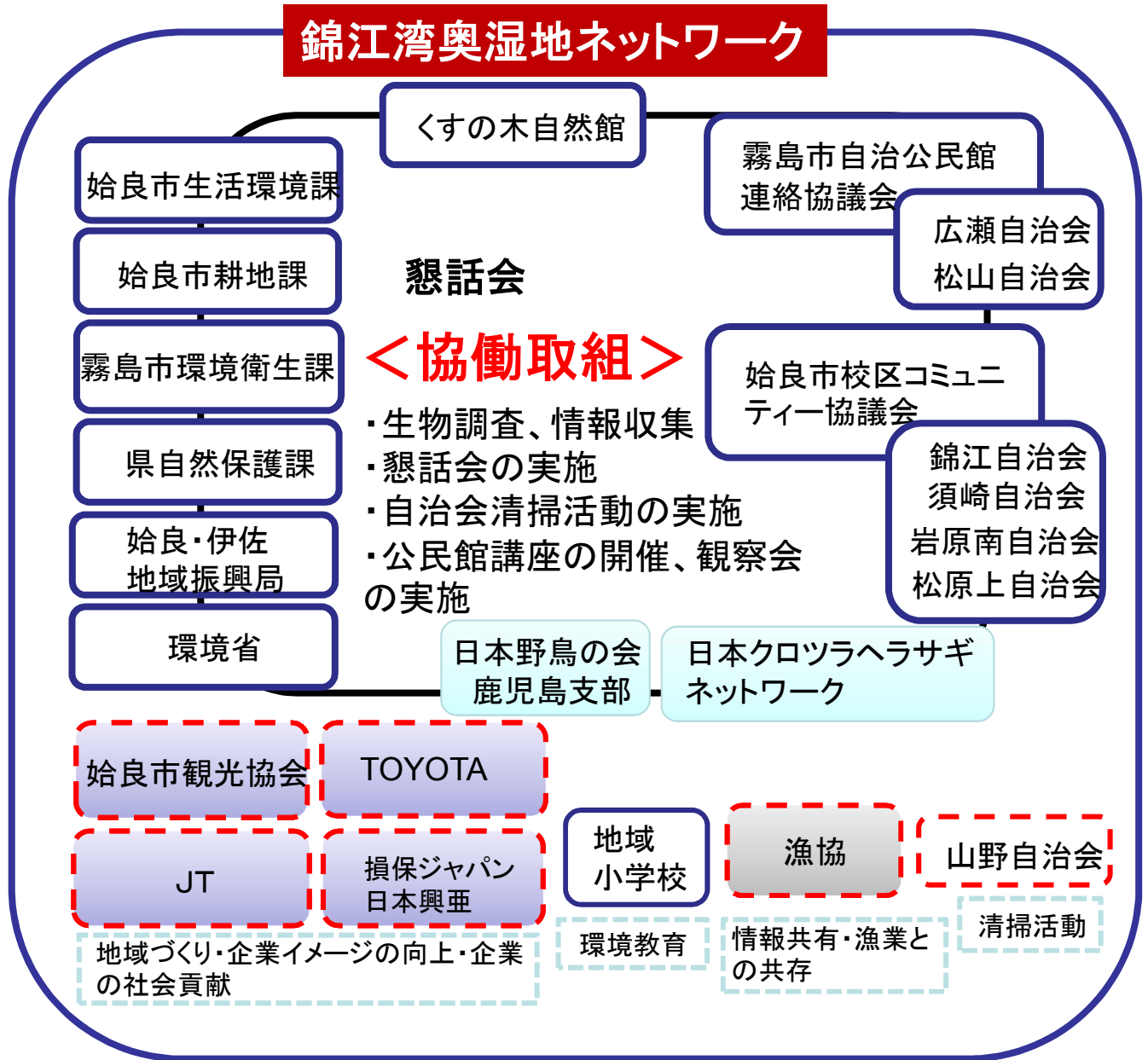
事業の結果を測る指標(アウトプット)

- 1) 定期的に実施する生物調査で蓄積されたデータを分析する。
- 2) 計3回実施する懇話会にて各回15名以上の出席者を得る。
- 3) 自治会同士の、行政区を越えた意見交換のできる環境を整える。

事業の効果を測る指標(アウトカム)

- 1) 湾奥湿地で今まで曖昧だった野生動植物の生息が確認され、生物多様性の啓発へ繋がる。
- 2) 今まで参加のなかった行政機関、自治会が懇話会へ参加するようになる。
- 3) 自治会から自発的に他所の自治会とコミュニケーションを図るような仕組みを作りあげる。
- 4) 自治会単独の清掃・保全活動を、湾奥一帯で一斉に実施できるような関係性を築く。

理想とする協働主体の関係図



2018年度の目標・事業内容・スケジュール

2018年度の目標

- ・湾奥湿地保全のためのネットワークの拡大
- ・地域自治体・団体を超えた共通合意によって保全利用の方向性を決定する

目標を達成するための具体策

霧島錦江湾国立公園のエリア改定を含めた、湾奥環境の保護施策に必要な手段を講じるための会議を行う

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
懇話会実施(年4回)			実施			実施			実施		
			観察会実施(年2回)						実施		
			出前講座実施(年3回)			実施			実施		
			一斉清掃イベント(年1回)計画・実施								
生物調査(毎月1回)											

2017年度の目標・事業内容・スケジュール

2017年度の目標

- ・錦江湾奥一斉清掃イベントの実施・恒例化
- ・新たな情報共有の場を構築する

目標を達成するための具体策

- ・懇話会を開催し、地域住民や湾奥の自治体・自治会と連携して一斉清掃イベントを行い、恒例行事化する
- 現場視察等のフィールドワーク・ネットワークを通じて湾奥の自治体・自治会・専門家と協議する

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
懇話会実施(年4回)			実施			実施			実施		
			観察会実施(年2回)						実施		
			出前講座実施(年3回)			実施			実施		
			一斉清掃イベント(年1回)計画・実施								
生物調査(毎月1回)											

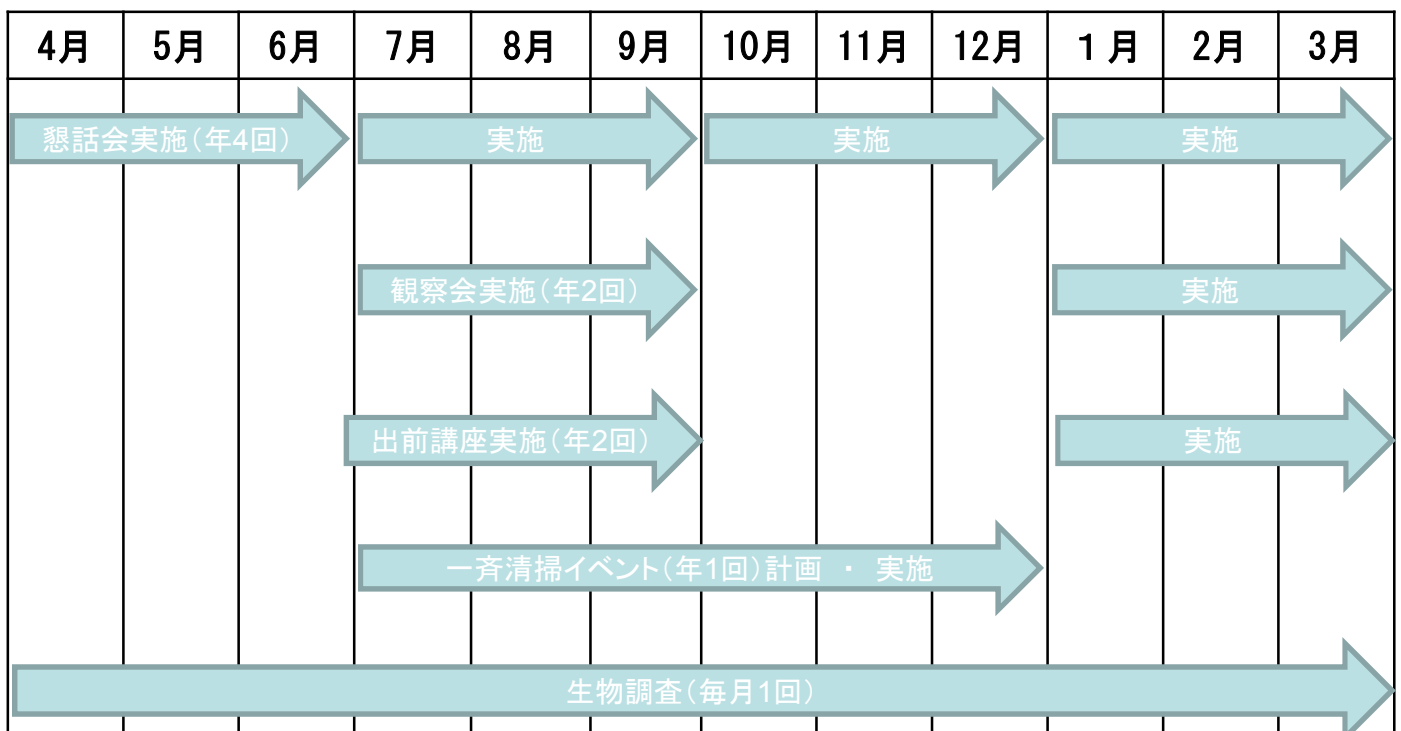
2016年度の目標・事業内容・スケジュール

2016年度の目標

- ・新たなステークホルダーにネットワークに参加してもらい、湾奥でカバーするエリアを拡大する
- ・自治体・自治会活動のなかで清掃活動・公民館講座といった協働取組を恒例化し、年2回以上実施する

目標を達成するための具体策

- ・湾奥で営業・活動するNPOや企業・自治会にネットワークへの参加を呼びかけ、協働取組へ協力依頼をする
- ・協働取組(清掃活動・環境教育)を自治会活動のスケジュールに組み込み、2015年度以上の参加を募る



事業実施における課題・リスクと対策

分類	課題・リスク	対策
人員	行政担当者や自治会長等、担当者が年度ごとに異動や交代があった際に、ネットワークの維持をどうしていくのか	ネットワークとしての活動や実働の恒例化を通して、担当者だけでなく各団体や部署全体を巻き込むことで、関係を密にしていく
財政	事務局機能維持のための費用を、ネットワークの中でどう工面するか	ネットワーク内で事務局の役割を明確にし、多様な資金・資源等を検討してネットワーク活動にかかる費用を捻出する 地元企業等からの支援（協賛や助成）を募る
懇話会の位置づけ	懇話会をネットワークの中でどのような場にしていくか	意見交換や情報共有に加え、ネットワークとしての取組について協議し、意思決定する場を目指す
行政施策への反映	懇話会での提案・意見を行政の施策にどう反映させるか	ネットワークの取組を推進し、行政のコミットを強化するため、行政の施策への反映を目指す 公的な会議でネットワークの意見を提案する
ネットワークの拡充	ネットワークの活動や意義を共有する新たな関係主体の巻き込みが弱い	ネットワークの価値、参加する意義やメリットを整理し、新たな関係者へアピールする。あわせて既存の関係者の個別のネットワークを通して、巻き込みを強化する。